

**循環式浴槽を持つ類似公衆浴場における
レジオネラ症発生防止対策**

1 類似施設に対する立入検査

平成14年7月30日から同年8月20日にかけて、県内の循環式浴槽を持つ公衆浴場を対象に、緊急立入検査を実施した。

その結果、ろ過器の清掃、消毒及び浴槽水中の残留塩素濃度の維持管理が不十分な施設が見受けられ、また、施設の自主検査において16施設からレジオネラ属菌が検出された。

衛生管理面で不備が確認された施設については、保健所環境衛生監視員により、適切な清掃、洗浄及び浴槽水の消毒について、その場で指導を実施した。同時に、衛生管理状態を確認するため、定期的な自主水質検査を、実施するよう指導を行った。

(1) 調査期間： 平成14年7月30日（火）から8月20日（火）まで

(2) 調査施設： 循環式浴槽をもつ類似公衆浴場77施設

(3) 立入検査結果

立入調査時の残留塩素濃度		循環ろ過装置の洗浄頻度	
・ 全て0.2mg/L以上	29施設	・ 毎日	39施設
・ 一部0.2mg/L未満	15施設	・ 7日以内	15施設
・ 全て0.2mg/L未満	31施設	・ 8日以上	21施設
・ 工事中・停止中	2施設	・ 工事中・停止中	2施設

レジオネラ属菌検査結果（単位：cfu/100ml）			
・ 10未満（陰性）	56施設	・ 1,001以上	2施設
・ 10以上 100以下	10施設	・ 検査中	3施設
・ 101以上 1,000以下	4施設	・ 工事中・停止中	2施設

レジオネラ症防止対策緊急実態調査票

NO()		実施年月日			
保健所名	記入者氏名				
施設名					
所在地					
申請者	衛生管理者				
	管理規約の有無				
源水	源水の種類 温泉水 ・ 地下水 ・ 水道水 ・ その他() 浴槽水が混合水の場合()水と()水を():() 源水の水質検査 1年に()回実施				
浴槽水の残留塩素濃度	浴槽名	残留塩素濃度 (mg/l)	測定時間	施設側立会者名	
平均入浴者数	平日		平均 人/日		
	土・日・祭日		平均 人/日		
施設機器	貯湯タンク	設置あり ・ 設置なし			
		設置ありの場合	設定温度	・ 設定なし	
			外気との遮断構造	遮断されている ・ 遮断されていない	
			清掃頻度	定期的(に 回) ・ 未実施	
		清掃方法			
	浴槽	連日使用型循環浴槽	基		
			換水頻度	()日に1回換水	
		毎日完全換水型循環浴槽	基		
		循環ろ過装置	基		
	エアロゾル発生装置	気泡発生装置	基		
ジェット噴射装置		基			
打たせ湯		基			
ミストサウナ		基			
衛生管理	浴槽等消毒	消毒液の名称			
		浴槽内の消毒	浴槽名	実施回数(1月あたり)	

衛生管理	浴槽等消毒	塩素自動注入装置 有 ・ 無 有りの場合 遊離残留塩素濃度設定値()mg/l		
	浴槽の清掃	浴槽名	実施回数	
			毎日 ・ ()日に1回	
			毎日 ・ ()日に1回	
			毎日 ・ ()日に1回	
	循環ろ過装置の清掃	ろ過装置名	実施回数	
			毎日 ・ ()日に1回	
			毎日 ・ ()日に1回	
			毎日 ・ ()日に1回	
	浴槽水の水質検査	実施している(定期的 ・ 随時 ・ その他) ・ 未実施		
レジオネラ属菌水質検査	実施している(定期的 ・ 随時 ・ その他) ・ 未実施 実施している場合			
	実施年月日	浴槽名	検査結果 cfu/100ml	
* 未実施の場合：実施予定月日()				
調査時の特記事項				

注：
実施回数が多い場合、
検査結果を
供与しても
らう。

2 類似施設に対するレジオネラ属菌検査

平成14年7月30日より実施した保健所による施設に対する立入指導後、衛生管理状態が改善されていることを確認するため、同年8月23日以降、県によるレジオネラ属菌の水質検査を実施した。

なお、その検査結果については、施設名も含めすべて公表を行った。

検査の結果、すべての施設でレジオネラ属菌は陰性であり、施設の衛生管理体制が改善されていることが確認された。

- (1) 調査期間： 平成14年8月23日（金）から9月23日（月）まで
- (2) 調査施設： 循環式浴槽をもつ類似公衆浴場76施設
- (3) 検査機関： 宮崎県衛生環境研究所
- (4) 立入調査結果

立入調査時の残留塩素濃度	
・ 全て0.2mg/L以上	60施設
・ 一部0.2mg/L未満	11施設
・ 全て0.2mg/L未満	5施設

レジオネラ属菌検査結果（単位：cfu/100ml）	
・ 10未満（陰性）	76施設
・ 10以上	0施設

3 レジオネラ属菌汚染防止対策講習会

レジオネラ症対策の専門家及び保健所職員を講師とし、県内入浴施設管理者を対象に講習会を開催した。

(平成15年度に入り実施された講習会は、宮崎県公衆浴場法施行条例及び宮崎県旅館業法施行条例の改正により定められた浴室等衛生管理責任者が受講しなければならない講習会を兼ねる。)

実施状況

実施年月日	会 場	参加人数	講 師 (演 題)
平成14年 9 月 4 日	J A アズム	5 6 4 名	株式会社 アクアス 縣 邦雄 (浴槽におけるレジオネラ属菌防止対策)
平成15年 5 月12日	延岡総合文化センター	2 2 4 名	株式会社 アクアス 佐々孝信 (入浴施設におけるレジオネラ属菌汚染防止を目的とした衛生管理)
平成15年 5 月13日	都城市総合福祉会館	1 8 3 名	
平成15年 5 月14日	宮崎市中央公民館	1 6 1 名	
	県総合保健センター	1 5 9 名	
平成15年11月27日	五ヶ瀬町	3 5 名	高千穂保健所衛生環境課職員
平成15年11月28日	高鍋保健所	3 3 名	高鍋保健所衛生環境課職員
平成15年12月 2 日	日向保健所	4 0 名	日向保健所衛生環境課職員
平成15年12月 2 日	都城保健所	8 名	都城保健所衛生環境課職員
平成15年12月 4 日	高千穂保健所	5 0 名	高千穂保健所衛生環境課職員

実施年月日	会 場	参加人数	講 師
平成15年12月5日	小林保健所	33名	小林保健所衛生環境課職員
平成15年12月5日	日南保健所	28名	日南保健所衛生環境課職員
平成15年12月9日	延岡保健所	28名	延岡保健所衛生環境課職員
平成15年12月12日	中央保健所	40名	宮崎市保健所衛生環境課職員

4 入浴施設におけるレジオネラ症発生防止対策事業

(1) 事業目的

県民の健康の確保と温泉施設に対する不安を解消し、県内の入浴施設におけるレジオネラ症に対する防止体制の充実強化を図る。

平成14年7月に日向サンパーク温泉において大規模なレジオネラ症の集団感染事故が発生し、それを受け、類似施設に対する緊急的な行政検査の実施や、公衆浴場法施行条例及び旅館業法施行条例の現実に即した改正を、平成14年度に実施したが、平成15年度以降、さらにきめ細かなレジオネラ症発生防止対策をとることを目的とした。

(2) 事業概要

ア レジオネラ属菌防止対策講習会の開催

公衆浴場等入浴施設の管理者を対象とした有識者による衛生管理講習会の開催

保健所職員を対象とした指導者講習会の実施

今回実施する講習会は、保健所職員がレジオネラ属菌の正しい知識及びその防止対策並びに指導方針を修得することによって、県内におけるレジオネラ症の発生防止と発生時の迅速で適切な対応を図れる体制を構築するために実施。

イ 県内入浴施設のレジオネラ属菌等による汚染状況の調査

公衆浴場等の浴槽水のレジオネラ属菌防止対策の実施状況を把握するため、保健所による対象施設の立入検査指導と水質検査を実施

(3) 事業効果

ア 入浴施設の管理者が、レジオネラ属菌の正しい知識及びその防止対策並びに指導方針を修得することによって、県民の被害防止と重要な観光施設である入浴施設における衛生管理の充実が図られる。

イ 県内の入浴施設のレジオネラ属菌による汚染状況を把握することにより、より適切な保健所による衛生管理指導を行うことが可能となる。

(4) 事業実績（平成15年4月1日から16年1月31日現在まで）

ア 事業者対象衛生管理講習会 13回

- 3 レジオネラ属菌汚染防止対策講習会実施状況参照

イ 保健所職員等指導者講習会 16回
実施状況

実施年月日	会 場	参加人数	講 師
平成15年 7月14日	都城保健所	47名	宮崎県福祉保健部 衛生管理課環境水道係職員 保健薬務課疾病対策係職員 宮崎県衛生環境研究所 微生物部細菌科職員
平成15年 7月14日	小林保健所	15名	
平成15年 7月16日	中央保健所	18名	
平成15年 7月17日	日南保健所	22名	
平成15年 7月22日	日向保健所	22名	
平成15年 7月22日	高鍋保健所	18名	
平成15年 7月23日	延岡保健所	35名	
平成15年 7月23日	高千穂保健所	15名	

実施内容

下記項目を1保健所当たり2回実施

- ・ 感染症としてのレジオネラ症対策（保健薬務課疾病対策係対応）
- ・ 細菌学的なレジオネラ属菌の情報（衛生環境研究所微生物部対応）
- ・ 施設の衛生管理面からのレジオネラ症対策（衛生管理課環境水道係対応）

ウ レジオネラ属菌行政検査

- ・ 平成16年1月末現在、継続して実施中につき、未集計